

杜乃杵

秩父神社社報
杵乃杜（ははそのもり）

第 71 号

令和7年7月20日
（川 瀬 祭）

奉祝 天皇陛下行幸



鳥総立て

足柄山に

船本伐り

樹に伐り行きう

あたり船材を

天皇陛下行幸 境内にて笠鉦・屋台六基の天覧賜る



天皇陛下には、本年五月二十四日から二十五日にかけて埼玉県に行幸遊ばされました。これに先立ち、当社にも幣饌料が伝達されており、五月二十五日の早旦には大前に奉奠されました。

さらに同日、天皇陛下には秩父神社参集殿において「小鹿野子ども歌舞伎」をご覧になられたのち、平成殿前広場にお進みになられ、毎年十二月三日の例大祭に供奉する二基の笠鉦と四基の屋台を御覧になられるとともに、蘭田宮司と秩父祭保存委員会の齋藤槻男委員長の案内で「秩父祭」の概要を御聴取遊ばされました。

笠鉦・屋台は、昭和四十二年に昭和天皇も御覧遊ばされており、大正十一年には秩父宮殿下にも御覧頂いております。あらためて大御心に感謝の誠を捧げるとともに、この栄誉を長く後世にお伝え申し上げる次第です。

御聖恩に感謝申し上げる

秩父神社宮司 蘭田 建



当社御鎮座二千年式年大祭並びに記念奉祝事業では、畏き辺りよりの御幣帛を賜り、忝くも有り難く感慨一入でございます。また、この度の埼玉行幸に際しても幣饌料を賜り、さらに例大祭の笠鉦・屋台を天覧頂くことが叶いました。改めて御聖恩に感謝を申し上げますとともに、御皇室の弥栄を心よりお祈り申し上げます。

振り返りますと、昭和四十五年十月二十五日には、災害復興を終えた本殿遷座祭の折に昭和天皇より、また平成二十六年の御鎮座二千年式年大祭に際しては現在の上皇陛下より、そしてこの度の記念事業完遂に伴う本殿遷座祭に際しては今上陛下より、それぞれ御幣帛を賜りました。実に三代の御代にわたり大御心をお寄せ頂けましたこと感謝の念に堪えません。

今後も大神様の御神徳のもと、氏子崇敬者の御健勝・御多幸並びに秩父地域の更なる発展を祈念申し上げ、巻頭のご挨拶に代えさせて頂きます。

【宮司肖像写真】

第71回全国写真展覧会

奥田昇きもの写真大賞受賞「凛々と」

武藤芳行氏（有秩父写真館）



国旗小旗を振る沿道の市民と天皇陛下



令和6年10月30日 本殿遷座祭



令和6年10月31日 奉祝奉幣祭



奉祝舞『柞乃舞』



大正11年11月26日 秩父宮殿下



天皇陛下行幸 御鎮座二千年奉祝事業完遂す

天皇陛下には、去る五月二十四日から二十五日にかけて第七十五回全国植樹祭開催にあたり埼玉県に行幸遊ばされ、県内の旧官国幣社（氷川神社・金鎖神社・秩父神社）に対し幣饌料を御下賜遊ばされたことから、当日早旦、大前に御奉奠申し上げました。

さらに同日、天皇陛下には当社参集殿において「小鹿野子ども歌舞伎」を御覧になられたのち、平成殿前の下境内にお進みになられ、十二月三日の例大祭に供奉する六基の笠鉦・屋台を御覧になられるとともに、蘭田宮司と秩父祭保存委員会の齋藤楓男委員長（当社大総代）から「秩父祭」の概要を御聴取遊ばされました。笠鉦・屋台は、昭和四十二年に昭和天皇も天覧遊ばされており、さらに大正十一年には秩父宮雍仁親王殿下が初めて秩父神社にお成り遊ばされた際にも御覧頂いております。

当社では、去る平成二十六年に御鎮座二千年の佳節を迎えたことから、遠く延喜の制に倣い、天皇陛下（現・上皇陛下）より御幣帛を賜り御鎮座二千年式年大祭を斎行するとともに、奉祝記念事業として御本殿の保存修理工事や御旅所の整備事業を進めて参りました。

昨年十月には六年に及ぶ御本殿彫刻群の彩色保存修理を終え、十月三十日の夕刻より本殿遷座祭、翌三十一日には今上陛下より御幣帛を賜り奉祝奉幣祭を斎行致しました。

さらにこの五月二十四日、埼玉県行幸にあたり幣饌料を賜り、翌二十五日には当社御鎮座以来初めて天皇陛下を境内にお迎えし、冬祭の笠鉦・屋台六基などをご覧頂きました。あらためて大御心に深く思いを致し、感謝を申し上げると共に、竹の園生の弥栄を心より祈念申し上げます。

秩父宮会報告

会長就任ご挨拶

一般社団法人秩父宮会代表理事(会長)



宮前 洋一

昨年末急逝された前会長園田稔氏の後任として、三月開催の理事会で第六代目の会長に選任された宮前洋一

です。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、大正天皇の第二皇子の淳宮雍仁親王殿下が新たに宮家・宮号を創立された際、全国の由緒ある地名の中から「秩父」を選ばれて以来、我々は特別な親しみと尊敬の念をもって「宮様」をお慕いして参りました。昭和二十八年「宮様」が薨去されると、ご遺徳を偲んで当会が設立されました。

残念ながら秩父宮家は妃殿下の薨去により断絶となりましたが「宮様」のお名前はラグビー場を始め記念市民会館、また各種の冠スポンサー大会を通して永久に不滅です。「宮様」皇室との縁は本心に貴重です。地域の財産、ステータス、求心力として地域発展に資すると確信します。どうか当会の活動にご理解、ご協力をお願い申し上げます。

【表紙歌解説】

鳥総立て 足柄山に 船木伐り
樹に伐り行きつ あたら船材と

植樹祭に因んで表紙に掲載した和歌は、万葉集・巻三に収められた歌です。

「鳥総立て」とは、昔の木樵が木を切り倒した後、頂上にある梢を切り株に刺して樹霊を祀り、木のイノチの再生を祈ったことに由来します。

かつて平成十七年に「自然の叡智」をテーマに開催された愛・地球博(愛知万博)を覚えていた方も少なくないと思います。当時、当社の宮司であった園田稔(故人)は、自身が主宰する社叢学会を通じてこれに参画し、折しも木曾の山中で斎行された第六十二回神宮式年遷宮に向けた御杣始祭の模様をハイビジョン中継で万博会場に放映するなど、森に生きる日本文化を国の内外に力強く発信されました。

それから丁度二十年、今年は大阪万博が賑やかに開催されています。

年年歳歳花相似たり

歳歳年年人同じからず

古い漢詩にもある通り、先代宮司も含めて多くの関係者が既に帰幽され現世にはいらつしやいませ。しかしながら、去る六月三日には次期遷宮に向けての御杣始祭が厳粛に斎行されるなど、日本人の敬虔な祈りは確実に次の世代に引き継がれています。個人的なことで恐縮ながら、表紙の和歌の読み方について多くの本で「伐り」(きり)と訓読させていることについて、先代宮司から「こり」と読む方が古語に相応しく和歌としての韻もよいと教えて頂きました。今一度、その理由について訊ねたいところなのですが既に叶わないことになってしまいました。

教へおく

その言の葉を 見るたびに
また同ふ方の なきぞ悲しき

古く千載和歌集に収められた藤原定定の歌です。先学の御恩というものは亡くなられて初めて分かるものかもしれません。

権禰宜 新井君美

解説

秩父神社(69)

杉山正司

◆続・秩父神社を巡る刀剣(三) 磨上げの謎

何故、折返銘としたのであろうか。刀全体を短く詰めることは「磨上げ」といい、時折行われる行為である。所有者の身長や腕の長さ、好み、あるいは剣術流派により磨上げが行われる。

刀身は、外装の柄に固定するために目釘で留める。磨上げにより、目釘を刺し通す茎の目釘穴の位置が変わり、当初は一つであるが、二つや三つなどとなるのである。当社の脇差も、当初の穴を埋めて、上方に新しい目釘穴が開けられている。

さて磨上げは、茎尻部分を切り落として短くする。太刀など茎が長い場合にはそれほど問題とならないが、脇差などは茎が短くなることで、握る部分が短くなってしまう。特に当社や坂本龍馬所用の勝光・宗光の脇差にも見られるように、その特徴

は、「片手打ち」という両手では

なく片手のみで持つ打刀形式で作られており、そもそも茎は通常よりは短い出来である。折返

された茎尻をみると、「栗尻」という栗の底の底のような「生

ぶ」という当初の姿である。片手打ち用のため、もともと茎は極端に短い。銘文がギリギリであり、栗尻をそのまま折返して残している。それだけ作刀者の名前を落とすことを、心から惜しんだことが感じられるのである。

さらに茎尻の磨上げに留まらず、「区送り」も行われている。

作刀時の刃区と棟区という刃身と茎の段差がある部分、すなわち鋤が留まる部分を上方に削って刀身を短くすることを区送りという。詳細に見るとこの脇差も、上方に約三〜四センチメートル程度区送りがされている。

したがって刃渡りは五十五〜六センチメートル、全身の長さは六十センチメートルを超える長さがあったことが推測できる。

折返して区送りをした磨上げのため、最初に開けられた目釘穴を埋めて、新たに上方に目釘

穴を設けたのである。

それでは、元々片手打ちであつた、それほど長寸ではない脇差を、何故磨上げ折返したのであろうか。

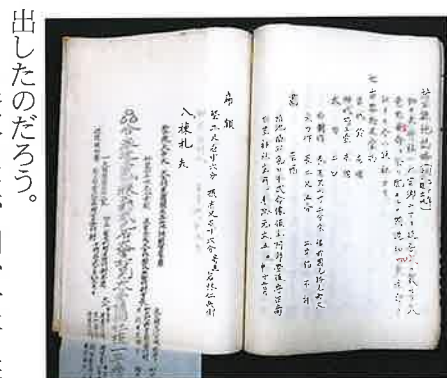
社宝

神社に奉納される刀剣は、名刀である。実際に本脇差も、勝光・宗光合作による名刀であるし、かつてあつた国宝短刀(景光作)や御物太刀(景光・景政合作)然りである。



当社には、「社格昇進願書」という現宮司の曾祖父の園田稲太郎宮司と氏子総代が大正十二年二月に、内務大臣に提出した簿冊がある。

先年たまたま古書店で売り立てられ、宮司(当時総宮司)の英断により購入した資料である。国に提出した書類が市中に出回ることなどから、何らかの理由で流



出したのだらう。

この資料には、明治十年に埼玉県が出版した『埼玉縣地誌略』の写しが付けられている。当社宝物の書上げで、この脇差と銘不詳の太刀の二口の刀剣が、列記されているにすぎない。丹党など武士の崇敬の篤い当社では、多くの刀剣が奉納されてきたはずであるが、何らかの理由で流出してしまったのであろう。しかし、この脇差は、少なくとも明治初年まで、神社の宝物として大切に守り伝えられてきたことの証でもある。

次回、社宝として大切にされてきた脇差の磨上げと伝来について考えてみよう。

(元埼玉県立文書館館長)

ふくろう
梟だより



◆ 鬼面二面奉納

此度、皆野町にお住いの中村



尚夫様より、節分祭に使用する「鬼面二面」をご奉納頂きました。ご報告致します。

◆ 奉納報告

秩父真菰保存会様より茅の輪調製にあたりご協力を頂きました。



◆ 秩父神社付属神楽主任就任



永く神楽主任をお勤め頂きました新井力也様のご勇

退に伴い、新井剛様がこの度当社付属神楽主任にご就任頂きましたのでご報告致します。

* 秩父神社神楽：・江戸時代(寛永年間 一六二四～一六二八)



に伝えられ昭和五十年十月には国指定無形民俗文化財の選定を受け、ユネスコ無形文化遺産にも「秩父祭の屋台行事と神楽」を含む「山・鉾・屋台行事」として登録されている。

◆ 秩父神社妙見講

自 令和 七年 二月
至 令和 七年 七月
二月二十四日 坂戸妙見講
小川直志講元外九十九名

四月二日 宮側講

久下正司講元外四十六名

五月五日 原谷講
堀口森延講元外三百三十七名

五月二十九日 近戸講
山口忠次講元外九十三名

六月七日 中宮地講
齋藤眞一講元外百四十四名

六月八日 熊木講
田代勝三講元外百三十一名

六月十四日 日野田講
山本和雄講元外 百三十名

六月二十一日 本町講
小川裕司講元外百六名

六月二十二日 下宮地講
根岸普一講元外六十二名

六月二十二日 別所講
井上哲雄講元外六十名

六月二十二日 幸手妙見講
高濱彰男講元外三十八名

六月二十九日 下郷講
江原謙一講元外二百八十九名

◆ 柞乃杜神前結婚式報告

東京都練馬区 鈴木 聡・テシ・全リン様

深谷市 桑谷健一郎・絵里奈様

東京都西東京市 松永竜弥・茉凜様

秩父市中村町 大嶋海渡・弥優様

大里郡寄居町 平林諒也・君香様

深谷市 和田 寛・千里様

秩父市日野田町 山口恭佑・奈実様

未永く幸せな家庭をお築き戴きますよう
お祈り致します。

◆ 職員辞令

巫女 町田詩歩 願により職を免す
(三月三十一日付)

編集後記

■ここに社報第七十一号をお届け致します。

■実際に埼玉県としては昭和三十四年の第十回大会以来、六十六年ぶり二回目となる全国植樹祭が当地で開催されました。

■当日、沿道は日の丸小旗を振る多くの市民で溢れ、用意した一万本の小旗は直ぐになくなくなりました。今年は昭和一〇〇年、戦後八〇年の節目の年にあたりますが、我が国の国民一体の国柄は、今日なお健在であることを確信した次第です。

■此度のご慶事は先人達のご努力により築かれたものであり、皇室と秩父地域との深い繋がりを示す証でもあったと云えるでしょう。

※ 本報の用紙は再生マツト紙を使用しています。



令和七年(二〇二五)七月二〇日

編集 秩父神社社務所

〒366-0004 埼玉県秩父市番場町一三

TEL 〇四九四 二二一〇二六二

FAX 〇四九四 二四一五五九六

印刷所 有限会社 拡文社印刷所

〒366-0004 秩父市東町二七一八